

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 11年10月

～円高、海外経済減速の影響で輸出が減少に転じる

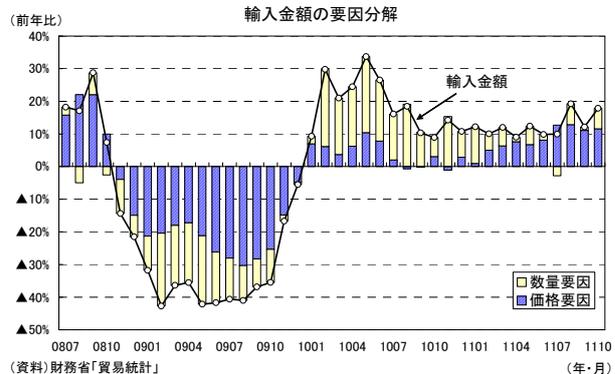
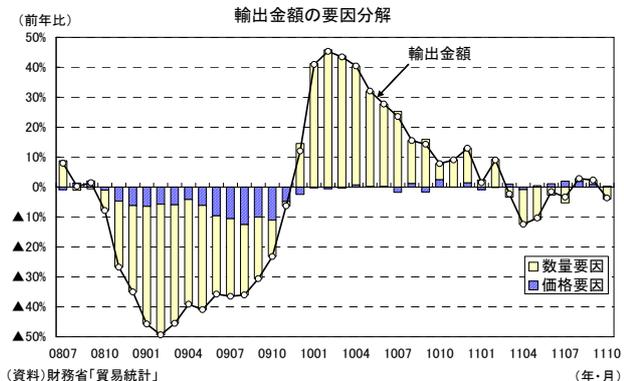
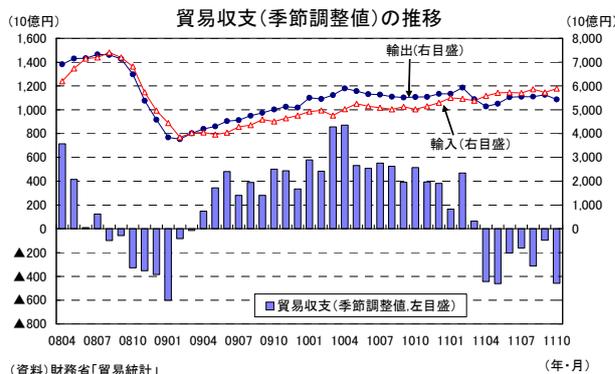
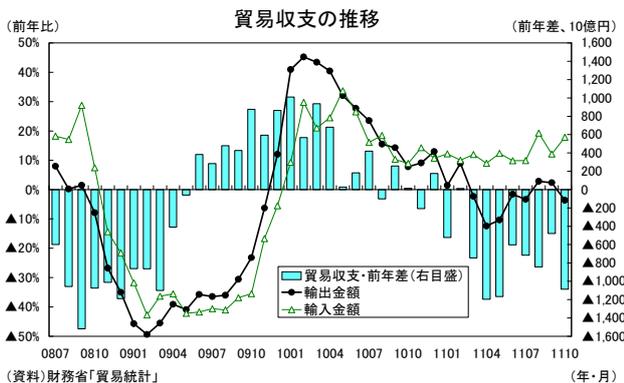
経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は7ヵ月連続の赤字

財務省が11月21日に公表した貿易統計によると、10月の貿易収支は▲2,738億円と2ヵ月ぶりの赤字となり、事前の市場予想(QUICK集計:484億円、当社予想は1,166億円)を大きく下回った。輸出が前年比▲3.7%(9月:同2.3%)と3ヵ月ぶりに減少に転じる一方、輸入の伸びが9月の前年比12.1%から同17.9%へと加速した。

季節調整済の貿易収支は▲4,579億円(9月は▲967億円)と7ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前月から大きく拡大した。



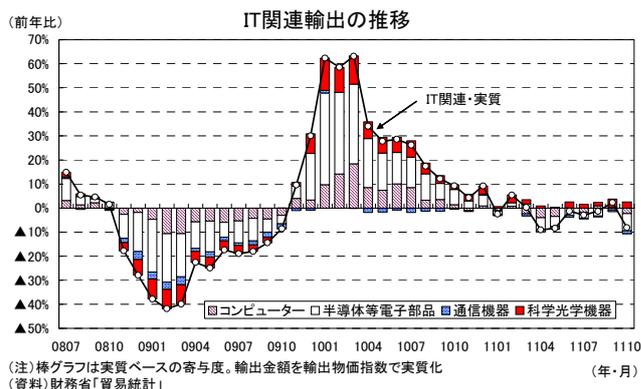
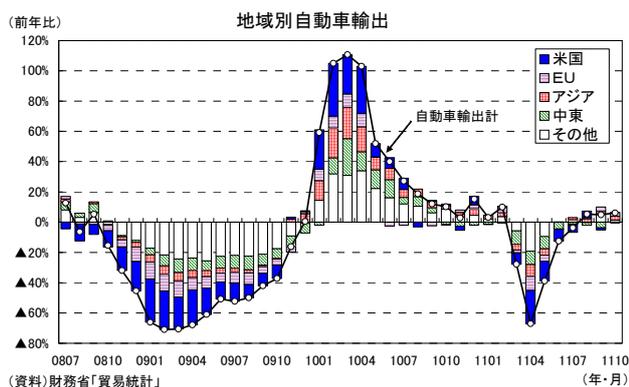
国内のサプライチェーン復旧に伴う急速なリバウンド局面が終了する中、円高、海外経済減速、タイの大規模洪水の影響などから、輸出は低迷が続く可能性が高い。一方、輸入は燃料費増加の影響などから高めの伸びを維持するため、年内は貿易赤字(季節調整値)が続くことが見込まれる。

貿易赤字の継続期間はリーマン・ショック時(08/8~09/3)の8ヵ月を超える可能性が高いだろう。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.0% (9月:同1.5%)、輸出価格が前年比0.3% (9月:同0.9%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比6.0% (9月:同1.0%)、輸入価格が前年比11.2% (9月:同11.0%)であった。

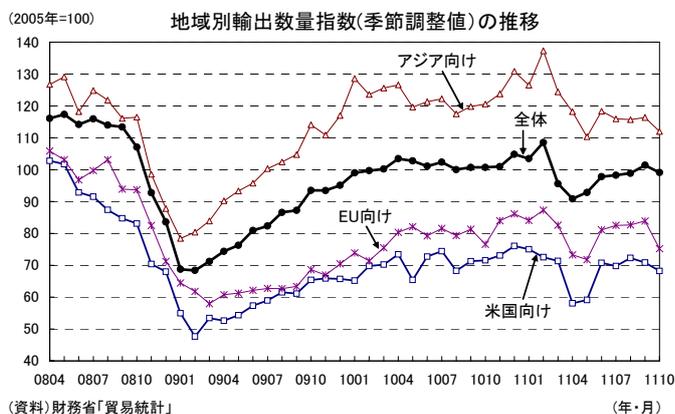
2. 輸出は全ての地域向けで減少

輸出の内訳を見ると、自動車輸出は比較的堅調だったが、世界的なIT関連分野の生産調整の影響からIT関連品目(コンピューター、半導体電子部品、通信機器等)が大きく落ち込んだ。



10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲4.7% (9月:同▲0.4%)、EU向けが前年比▲2.1% (9月:同3.2%)、アジア向けが前年比▲7.0% (9月:同▲2.8%)といずれも減少となった。季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比▲3.7%、EU向けが同▲10.4%、アジア向けが同▲3.8%、全体では同▲2.3%となった。10月の輸出数量指数(季節調整値)の水準は7-9月期よりも▲0.4%低くなっている。

一方、10月の輸入数量指数(季節調整値)は前月比1.9%となり、7-9月期よりも0.9%高い水準となった。



7-9月期のGDP統計では輸出が前期比6.2%の高い伸びとなり、外需寄与度が前期比0.4%と5四半期ぶりに成長率の押し上げ要因となったが、10-12月期の外需は輸出の低迷を主因として再びマイナスに転じる可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。